

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

光市教育委員会学校教育課

# 調査の概要

- 1 目的** 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 2 調査期日** 令和6年4月18日（木）
- 3 調査対象** 光市立小学校第6学年児童（11校） 光市立中学校第3学年生徒（5校）
- 4 調査内容** (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学） ①と②を一体的に出題。
- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
- (2) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- ・達成感、規範意識、自己有用感等
  - ・ICTを活用した学習状況
  - ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
  - ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

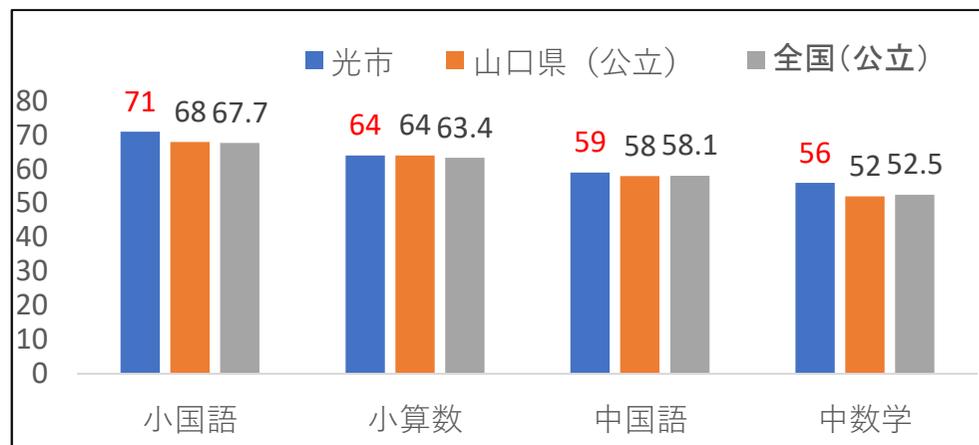
# 教科に関する調査結果

## 1 結果と分析

### (1) 本年度の結果（平均正答率（％））

※平成29年度から、都道府県・市町村における平均正答率は整数値で提供

	小学校6年		中学校3年	
	国語	算数	国語	数学
光市	71	64	59	56
山口県（公立）	68	64	58	52
全国（公立）	67.7	63.4	58.1	52.5



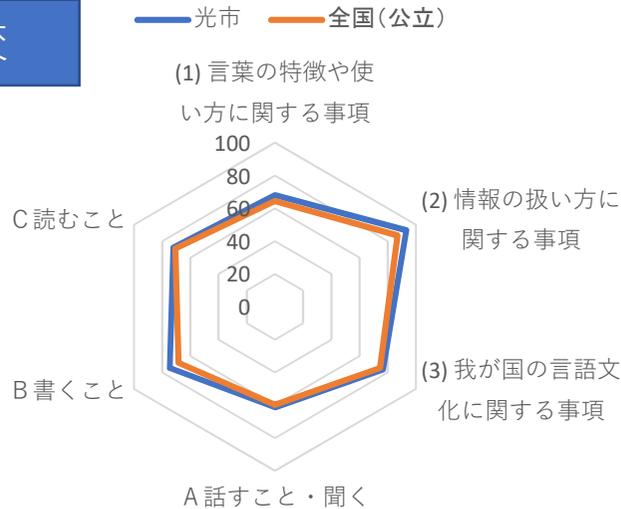
### (2) 平均正答率の推移（令和4年～令和6年度の3ヶ年を通して）

※全国平均を100とし、数値の差を表したものの。

	小学校			中学校			
	国語	算数	理科	国語	数学	英語	理科
R4	97.6	96.5	99.5	107.2	105.1	-	105.5
R5	102.6	104	-	106	109.8	89.9	-
R6	104.8	100.9	-	101.5	106.6	-	-

# 領域別結果（国語）

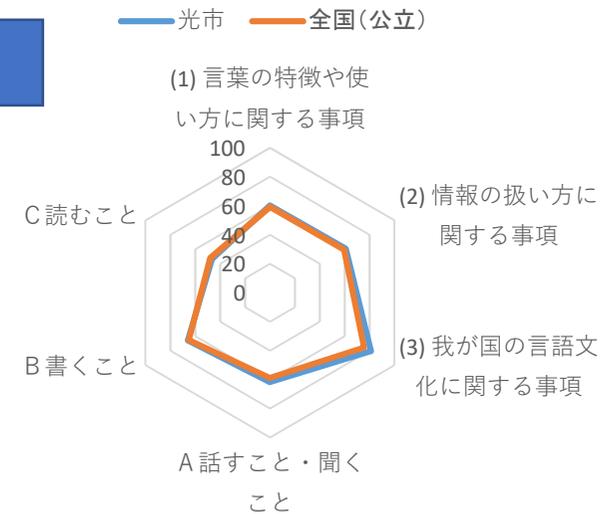
## 小学校



		平均正答率(%)			全国平均との差
		光市	山口県(公立)	全国(公立)	
全体		71	68	67.7	3.3
知識 および 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	68.0	64.8	64.4	3.6
	(2) 情報の扱い方に関する事項	93.2	88.3	86.9	6.3
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.6	72.3	74.6	2.0
思考力	A 話すこと・聞くこと	61.3	61.7	59.8	1.5
判断力	B 書くこと	74.6	70.4	68.4	6.2
表現力	C 読むこと	71.9	70.0	70.7	1.2

○「書くこと」について、条件作文などの短時間学習や、授業における学びの「振り返り」において言葉にする取組を組織的に展開されている成果が表れていると考えられる。

## 中学校

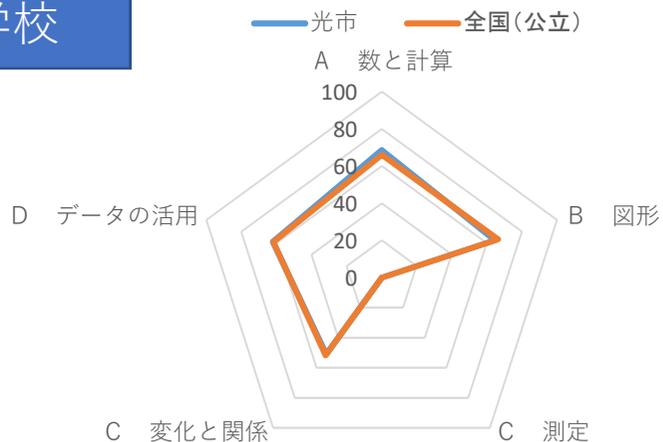


		平均正答率(%)			全国平均との差
		光市	山口県(公立)	全国(公立)	
全体		59	58	58.1	0.9
知識 および 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	60.2	60.0	59.2	1.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項	60.8	59.4	59.6	1.2
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.1	79.4	75.6	5.5
思考力	A 話すこと・聞くこと	61.7	57.6	58.8	2.9
判断力	B 書くこと	66.0	64.9	65.3	0.7
表現力	C 読むこと	46.4	46.7	47.9	-1.5

○「読むこと」について、描写をもとに登場人物の心情の変化を捉えたり、文章全体と問われている部分との関係に着目し、主張を捉えたりする言語活動を引き続き充実させていく。

# 領域別結果（算数・数学）

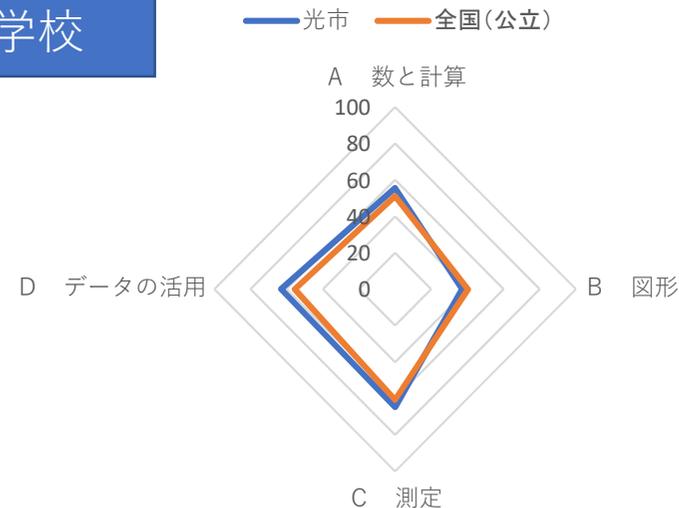
## 小学校



	平均正答率(%)			全国平均との差
	光市	山口県(公立)	全国(公立)	
全体	64	64	63.4	0.6
A 数と計算	68.6	67.2	66.0	2.6
B 図形	64.6	66.1	66.3	-1.7
C 測定	-	-	-	-
C 変化と関係	51.1	50.5	51.7	-0.6
D データの活用	62.0	62.0	61.8	0.2

○「図形」の領域については、図形を構成する要素やそれらの関係を捉えられるよう、タブレット端末のデジタルコンテンツを効果的に活用するなどの取組を一層進めていく必要がある。

## 中学校



	平均正答率(%)			全国平均との差
	光市	山口県(公立)	全国(公立)	
全体	56	52	52.5	3.5
A 数と計算	55.6	51.9	51.1	4.5
B 図形	37.1	37.4	40.3	-3.2
C 関数	64.7	60.3	60.7	4.0
D データの活用	63.1	55.9	55.5	7.6

○「データの活用」領域に成果が見られる。必要なデータを収集し、特徴や傾向を読み取ることで力を発揮できている。小学校同様に、「図形」の領域に課題が見られる。引き続き、図形を構成する要素に着目した学習活動の充実を図る。

# 児童生徒質問紙の結果

## ①子どもの意識に関する質問

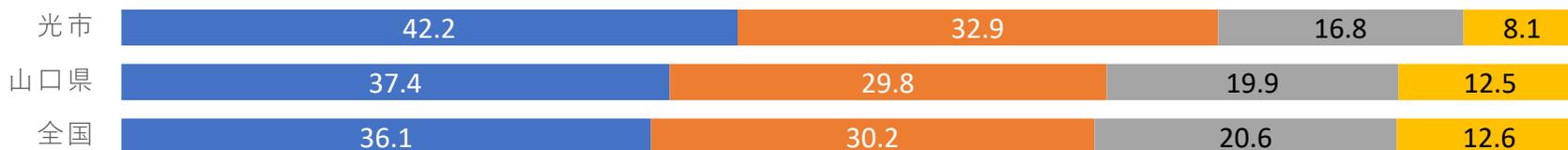
■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

### 将来の夢や目標を持っていますか

小学校

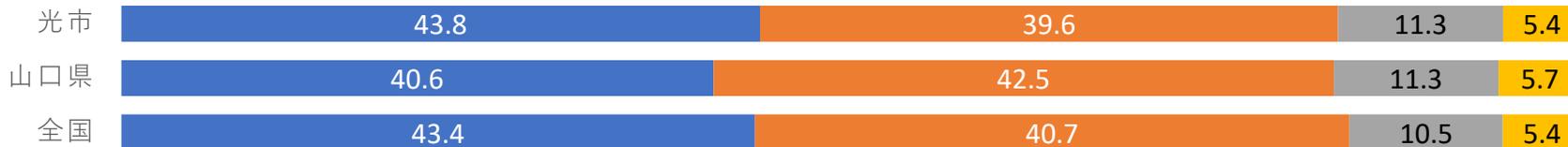


中学校

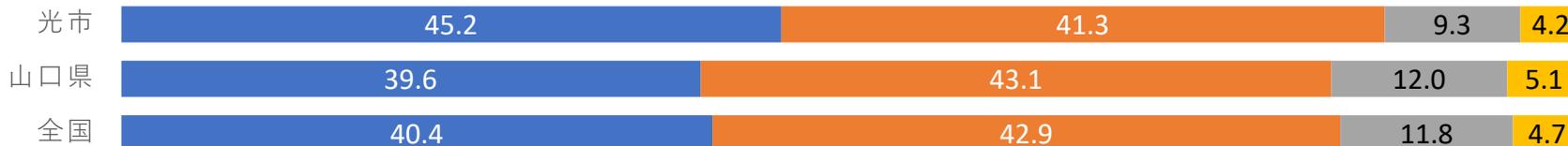


### 自分にはよいところがあると思いますか

小学校



中学校



# 児童生徒質問紙の結果

## ①子どもの意識に関する質問

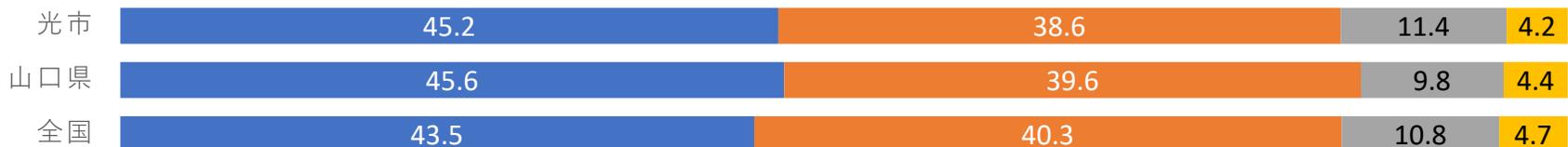
■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

### 学校に行くのは楽しいと思いますか

小学校



中学校



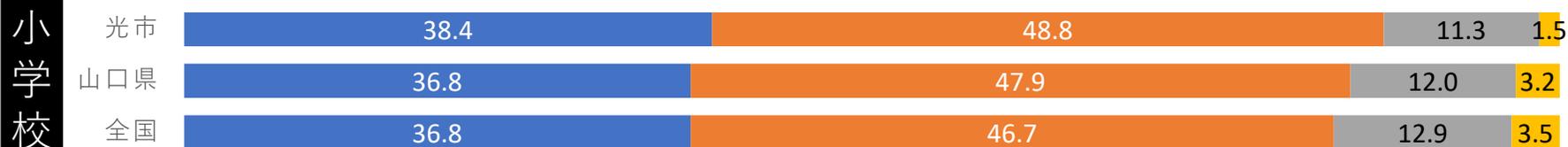
「将来への夢や目標を持っていますか」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は全国の回答に比べてかなり高く、「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国の回答に比べて同程度、もしくは高い。

本市のコミュニティ・スクールの機能を生かし、行事等の活動を工夫して実施されてきたことにより、様々な他者から児童生徒一人ひとりのよさが具体的に認められたり、適切に評価されたりすることなどにより、自己肯定感・自己有用感等が高まっていると考えられる。

# 児童生徒質問紙の結果

②地域との関わりに関する質問 ■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



人の役に立つ人間になりたいと思いますか



# 児童生徒質問紙の結果

## ②地域との関わりに関する質問

「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」に関する質問は、全国平均よりかなり高い結果となっている。例年、本市は中学生の地域貢献に対する意識が高い傾向にあったが、小学生の意欲の高まりが見られる。これも、コミュニティ・スクールの機能を生かした地域とともにある学校づくりの成果であると考えられる。

今後も地域とのつながりを大切にするとともに、「社会に開かれた教育課程」の一層の充実を図り、主体的に社会に参画しようとする意識や態度の醸成に努める。

# 児童生徒質問紙の結果

## ③授業改善に関する質問

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



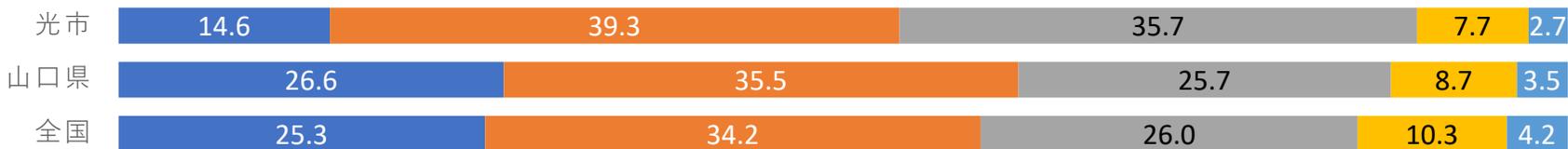
# 児童生徒質問紙の結果

## ③授業改善に関する質問

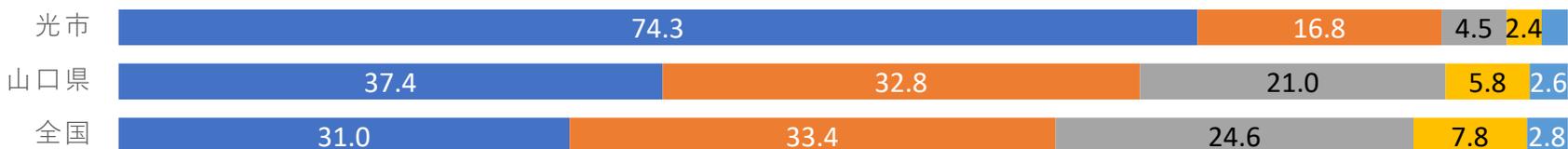
■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満

### コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか

小学校



中学校



「学習した内容について、分かった点、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問については、小・中学校はどちらも全国、県を上回っている。「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という質問に、肯定的に回答した割合は、全国および県と同程度、もしくは下回った。小中一貫教育の中で、小中が連携して児童生徒が学びに向かいたくなるような指導方法等の改善を図ることが求められる。

ICT機器の使用頻度については、学習者タブレットの導入以降、中学校では、全国および県平均を大きく上回っている。小学校では、週3回以上活用しているという回答は全国、県平均を上回ったものの、毎日活用する児童の割合は下回った。学年によって使用頻度が大きく異なる可能性もあることから、タブレット端末を含む多様な教具を効果的に活用する授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりにつなげていく。

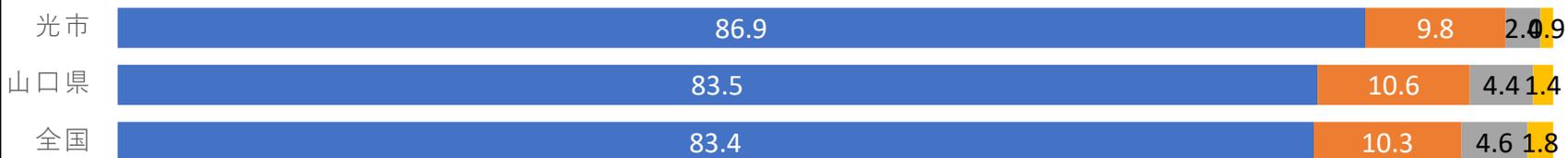
# 児童生徒質問紙の結果

## ④家庭での生活習慣・学習習慣に関する質問

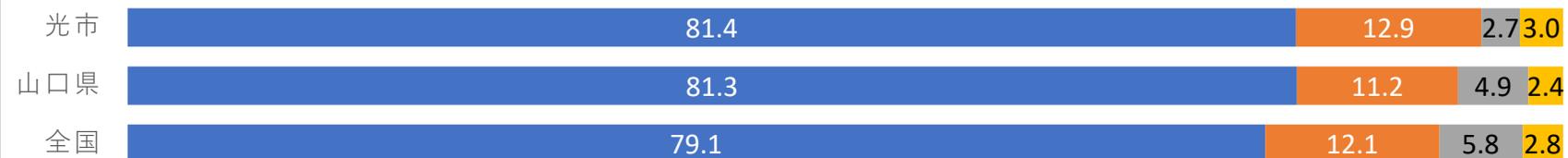
朝食を毎日食べていますか

■当てはまる ■どちらかという当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

小学校



中学校



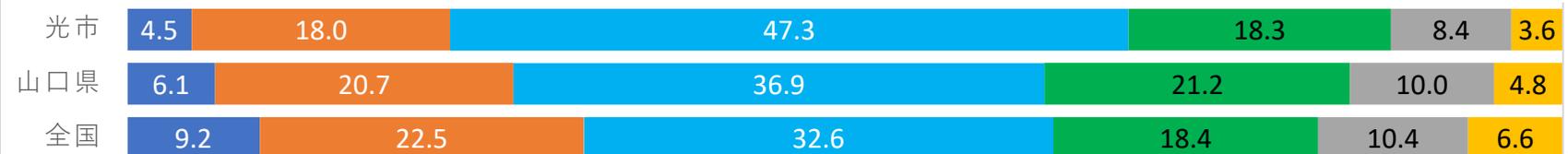
平日一日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか（学習塾・家庭教師・インターネットを活用した勉強時間を含む）

■3時間以上 ■2～3時間 ■1～2時間 ■30分～1時間 ■30分以下 ■全くしない

小学校



中学校



# 児童生徒質問紙の結果

## ④家庭での生活習慣・学習習慣に関する質問

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができますか

■ 当てはまる ■ どちらかという当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校



「朝食を毎日食べていますか」という質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は全国平均よりも高い。学校での食育指導をさらに進め、自らの健康を守る意識が高まるようにするとともに、より多くの児童生徒が朝食を摂ることができるよう家庭と連携した取組を進める必要がある。

家庭学習の時間については、小・中学校とも平日1時間以上学習している割合が全国平均より高いものの、2時間以上学習している割合は低くなっている。

自分で学び方を考え、工夫することができる児童生徒の割合は、小学校は全国平均を下回り、中学校は同程度であった。自分に合った学び方で計画的に家庭学習を行い、自己の目標を達成していく力は重要になることから、今後も引き続き、学校教育と家庭教育との連携を密にし、家庭学習の習慣の定着と内容の工夫に努めていく。